

TALK THEME

難病と食事 について



ゆかわ歯科クリニック
湯川健先生

Q 病気で食べ物を口にできなくなる基準とは？

A 原因となる病気は大きく分けて3つ、「脳血管障害」「神経疾患」「認知症」があります。「脳血管障害」では主に脳卒中で、脳梗塞が7割、脳出血が3割といわれています。どの部位での脳卒中かで大きく変わってはきますが、少なくとも発症後2年間は改善が期待できるので、その期間であれば再検討の余地があります。「神経疾患」のうちパーキンソン病は、頸部の固縮程度や薬の作用程度によって経口摂取が可能になる場合もあります。また、パーキンソン関連疾患の経口摂取は経過に合わせる形になり、それ以外の神経疾患は別の方法による栄養確保に移行する頻度が高いため、主治医の指示を仰ぐことが大切です。「認知症」では、先の2つと大きく異なり、意思疎通が障害と理解障害に起因しているため、食事に関しては他者による支援、介助でのアプローチが基本です。

Q 口から食べ物をとる大切さとは？

A 「口から食べ物をとる」という行為の最大の目的は「生命維持」ですが、食べ物を取ることによる満足感や幸福感も人として大切な目的だと思います。もちろん、「口から食べ物を取る」ことが、医療上の制限や危機回避から必要なことではありますが、一時的でも、少量でも、好きな物を口から食べるということを実践し続けていきたいですね。

89.7 MHz

毎週月曜日の13時台FM東広島で放送中

11月23日13時台の出演は、
いげがみ小児歯科・池上明雄先生に聞いていきます。

教えて
歯医者さん

歯にまつわる
いろんな情報を届けます